

令和7年度 八王子市立鑓水小学校学校経営報告書

校長 高田 浩

1 学校経営目標達成に向けた重点項目

- (1) 学力向上
- (2) 豊かな心
- (3) 特別支援教育
- (4) 不登校対応
- (5) 学校運営協議会と協働した学校経営
- (6) 共創の機会の充実
- (7) 学校組織の強化と教職員のウェルビーイング

2 中長期的目標と方策（◎は重点目標）

1年を通して下記の①から④を柱として義務教育9年間を見通した小中一貫教育を推進する

- ①児童・生徒が合同で行う活動の充実…「プレ中学生プロジェクト」「はちおうじっ子サミット」等
- ②鑓水中学区の子供に共通した課題を明確にした3校合同研究…児童・生徒の思いや願いを取り入れた9年間で育てたい子供像『好きになれる～自分・仲間・学校・地域・挑戦～』（令和6年度作成）の実現のための取組と家庭や地域への啓発活動の推進
- ③児童・生徒に関する情報の共有…人間関係や特別な支援、いじめ、不登校等について共有、協議
- ④家庭・地域とともにある学校づくり…学校運営協議会を中心とした子供を支え、育てる体制の充実

(1) 学力向上

◎授業改善

方策 ⇒新しい時代に求められる資質・能力を意識し、授業改善の視点「主体的・対話的で深い学び」を実現させるため、自力解決の時間や学び合う時間の設定等、子供主体の授業を実施する。

⇒教師及び子供たちのタブレット端末等のICT機器活用スキルを向上させるとともに、授業や家庭でのICT機器の効果的な活用をすすめ、GIGAスクール構想の実現を図る。

◎基礎基本の徹底

方策 ⇒様々な補習の機会を充実させるとともに、3年生以上対象に月1回「すごろくタイム」を設け、学習に悩みを抱えている子供の相談にのる機会を設定する。

○外部人材の積極的な活用

方策 ⇒学校コーディネーターと連携し、全学年で、本物に触れる機会を設け、教育の質の向上を図る。

○体育健康教育

方策 ⇒令和5・6年度東京都体育健康教育推進校としての取組をもとに、持続し続ける活動を精選し、次の時代につなげる体制や仕組みを構築する。

【成果と課題、改善の方向性】

○授業改善の視点を意識した授業づくり及び授業展開を実施すること、特に、自力解決の時間や学び合う時間を意図的に設定していることはできている。次年度以降は、「深い学び」により一層焦点をあて、子供がアウトプットする機会や場面を充実させる授業への改善を図っていく。

○一人一台のタブレットの活用について、児童アンケート前期89.7%、後期86.4%が積極的に活用していることが分かった。授業中、文房具のようにタブレットを適時使用する姿も多く見られた。今後は、情報活用能力の育成を子供主体の授業づくりに活かす工夫や「デジタルの力でリアルの学びを支える」活用の仕方を工夫していく。

○今年度より設定した「すごろくタイム」について、学習に悩みを抱えている子供を救うという部分は十分に機能しているとは言えなかった。次年度は、算数に特化し、回数も増やして、本来の趣旨にあった時間にするよう教員間で共通認識、共通実践を図る。

(2) 豊かな心

◎あいさつの励行

方策 ⇒子供たちが活躍する未来を見据え、コミュニケーション能力の向上の一環としてあいさつを大切にしたい指導を行う。

◎いじめ対応の強化

方策 ⇒適時、臨時学校いじめ対策委員会を設け迅速かつ組織的な対応を行うとともに、週1回、学校いじめ対策委員会を実施し、いじめの予防及び早期発見、早期解決を図っていく。また、年3回の研修を計画的（1学期管理職、2学期いじめ防止担当、3学期若手教員がそれぞれ講師を担当）に実施し、教員一人一人のいじめへの理解と対応能力の向上を図っていく。

⇒代表委員会を中心とした子供の自治的な活動をとおして、いじめを許さない校風を育てる。

◎学級経営

方策 ⇒学級会等の学級活動を充実させることで、互いの考えや意見を尊重し、望ましい人間関係を形成するとともに、合意形成を意識した、集団の一員として諸問題を解決しようとする自主的、自治的な態度を育てる。

【成果と課題、改善の方向性】

- 様々な場面を活用し、あいさつの大切さを指導するなど、教員の意識は高まっている。今後は、子供自らがあいさつの大切さに気づき、広めていくような活動を取り入れる必要があると考える。
- 今年度は年3回のいじめ防止研修に弁護士や若手教員など、様々な立場の教員が講師として実施することで、多面的・多角的ないじめ問題をとらえる有益な研修が実施できた。また、いじめ対応コーディネーターを2名体制とした。その結果、より迅速かつ丁寧で、組織的な対応ができる体制を作り上げることができた。その結果、保護者アンケートでは令和6年度後期84、8%から令和7年度後期90%となっている。
- 学級会を通して子供に合意形成の力を付けることについて、教職員アンケートで学級会の指導に不安があると答えた教員が5月は50%存在していたが、1月になって14%まで減少するなど、学級会の進め方について理解を深めることができた。しかし、子供たちに合意形成の力を付けさせることについては難しさを感じている教員が多く、次年度も学級会を中心に研究をすすめていくこととした。
- 積極的にタブレット等の活用をすすめていく一方で、SNS等の普及により子供が危険にさらされることも多くなってきていることから、情報モラル教育について、発達段階に応じた指導計画を作成し、適時を考え、指導していく。

(3) 特別支援教育

- 一人一人の子供に適切な合理的配慮を推進していく。

方策 ⇒特別支援教育コーディネーターを複数指名し、コーディネーターを中心とした校内委員会を充実させるとともに、外部講師による研修を毎年実施し、理解を深める。

【成果と課題、改善の方向性】

- 特別支援教育コーディネーターを担任も含め、複数指名することで、よりきめ細やかに個々の子供たちの状況や支援の在り方を検討する体制がつくられた。また、特別支援教育を専門とする大学教授を招いての研修を実施するなど、特別支援教育に関する知識及びスキルの向上を図った。次年度からは、小小連携をすすめている由木西小学校と合同で特別支援教育に関する研修を実施することとした。

(4) 不登校対応

◎きめ細やかな不登校の子供への対応

方策 ⇒子供が自ら社会とかかわろうとするきっかけとなりうる機会や場の充実を図る。令和7年度からは、スマイルームを放課後も開放したり、不登校の子供が大人とかかわる機会を創設したりする。

【成果と課題、改善の方向性】

○スマイルームの放課後開放等をすすめたが、今のところ、個々の子供たちが社会とかかわりたいと思うニーズと一致しているとは言えない状況である。登校支援コーディネーターを複数指名し、学校としての引き出しを今後も増やしていく。

(5) 学校運営協議会と協働した学校経営

◎学校運営協議会及び3校合同学校運営協議会と連携し、地域貢献を意識し、地域の拠点としての学校の役割を果たす。

方策 ⇒学校だけで決定するのではなく、常に学校運営協議会と協働することで、保護者や地域の意見を学校経営に活かしていく。

⇒学校運営協議会が中心となり、子供たちが地域行事に参加する機会を設け、子供たちの地域愛や地域を支える当事者意識を育てる。

【成果と課題、改善の方向性】

○やりみずTシャツ販売に際し、保護者の負担を考え、白色に限り体操着として使用することができるようにするなど、保護者のニーズを反映した協議を行うことができた。

○子供たちが地域行事に参加する機会を設定するように検討した結果、「ジュニアリーダー制度」を立ち上げ、青少対主催のやりみずプラザ等で、児童・生徒が企画・運営にかかわる機会を設定し、実現することができた。

(6) 共創の機会の充実

○子供自身が学校運営について考えたり意見表明をしたりする機会を設ける。

○教員と保護者や学校運営協議会、やりみず会と交流する機会を設ける。

○校長が、保護者と意見交換をする機会を年3回設ける。

◎外部人材とのかかわりをとおして、子供が地域や社会の幸せを考える機会とする。

【成果と課題、改善の方向性】

○「はちおうじっ子サミット」について、より児童・生徒主体でいじめ問題を考える方向に改善を図った。今後も、様々なことについて、子供自身が自分事として考えられるように、工夫していく。

(7) 学校組織の強化と教職員のウェルビーイング

◎組織の一員としての役割と責任を自覚し、成果を上げる意識をもって職務を遂行する。

方策 ⇒自分の担当校務の目標と具体的な方策を明確にして職務を遂行する。

○交換授業や教科担任制

方策 ⇒3年生以上の学年で、状況に応じて、交換授業や教科担任制等を実施し、複数の教員で学年全員の子供を育てる体制を整えるとともに、授業の質の向上を図る。

【成果と課題、改善の方向性】

○通知表の総合所見の面談への代替えを2学期まで拡大したり、勤務時間に沿った生活時程の見直しを図ったり、様々な合理化を図ってきた。次年度以降、教員の時間外在校等時間を1か月あたり、30時間から45時間以下にするなど、さらに厳しい基準が示されるので改善をすすめる。